「平和と人権」市民ネットワーク情報 №24-2（通算 106 号）
事務局発行(TEL 0557-45-1182) http://peaceito.moo.jp 2024.2/1

24 年総会 たくさんの人が参加しました

◆1 月 21 日(日)雨模様の空の下、「市民ネットワーク」と「市民アクション」の 24 年総会が開かれました。同じ日の同じ時間帯に不登校児の講演会があり、そちらに参加される方が何人もいました。総会に人が集まるか心配でしたので、たくさんの人に電話で参加をお願いしました。その甲斐あって、電話しなかった人も含め、全部で 28 名もの人が悪天候のなか、「ひぐらし」に足を運んでくれました。これだけでもう今年の総会は成功した、という実感です。「総会」と銘打つ以上、会にとってもっとも重要なイベントに、呼びかければ応える人たちがこれだけいるわけですから。

内容を紹介します。

(1)開会あいさつは斉藤昭夫さん。能登半島地震の被災者の苦境に触れ、「自助・共助は限界、公助の出番だ。巨額な金食いの万博中止、リニアも辺野古基地も中止、大軍拡も中止して被災者支援に回せ」と訴えました。また、改憲情勢については、国会では護憲派は圧倒的な劣勢であり、市民の力・草の根の力で喰いとめる他はない、と檄を飛ばしました。

(2)次に、事務局より「前年度の活動」➔「会計報告」➔「今年度の活動」と説明し、質疑応答へと続きました。要点を摘記すると…

・昨年 3 月の松元ヒロさんのライブ、12 月の「わが青春つきるとも」上映会が、ともに大盛況で大幅な黒字となり、財政はこれまでになく豊かになった。貯めるのではなく、会員・賛同者に還元したい。
・今年度の活動の重点は、「地区 9 条の会」を立ち上げ、草の根をもっともっと豊かに広げて行くこと。
・「学習と行動」を両輪に運動を進めたい。学習のテーマは「憲法と生活の関わり」を軸にして、知人や地域の人に宣伝と対話を進めたい。

※19 日行動の費用分担に関して質問がありました。

Q 財政が豊かになったので、加盟団体からの拠出金(道路使用申請料)を停止する考えはないか。
A 加盟団体が主体的に参加する意識を持てるので、拠出金の仕組みを続けたい。

なお、函南や三島では、警察から道路使用申請をせよ、との要請はないそうです。

(3)最後に、地区 9 条の会から報告。**「川奈・吉田 9 条の会」**では、二回にわたって会の目的やどんな活動をするかを話し合ったこと、毎回、話の内容を文書にまとめ共有していることを紹介しました。メンバーの山口牧師は、会の意義を絵本に託して語りました…一人一人の力は弱くても合わせれば強い力になること、一人一人は全体の道具ではなくそれぞれが完成品でありかけがえのない存在である、と。

「伊豆高原 9 条の会」の創立から現在までを伊藤廣光さんが報告しました。毎月 9 日の宣伝行動と学習会を実行できているが、参加者を広げることが課題だと、言われました。

経験交流の部

◆後半は、「函南 9 条の会」と「三島 9 条の会」の報告を基に、地域の平和活動の経験交流をしました。

①函南の澤村さんから

会が出来て 20 年になる。活動内容は毎年基本的に同じ。

・1 月初旬の新成人への平和の訴え。

・毎月 3 日と 19 日のスタンディング：7:15 から 30 分間。

・5 月 3 日の意見広告：剰余金が活動資金となっている。

・8 月 6 日と 9 日の平和の鐘突き

・9 月の「函南平和の集い」(平和展)：一昨年は「原爆の図」の展示。入場者は 230 人。

※「函南 9 条の会」の特徴は、他団体と協働して活動に取り組んでいること。スタンディングは「オール函南」で、平和展は各団体の代表で実行員会を作り、取り組んでいる。課題は若い人を巻き込んだ運動をどう作っていくかだ、と語っていました。

②三島の徳永さんの報告

2005 年に、地域や職場ごとの 9 条の会を束ねる連絡会として「三島 9 条の会」がつくられた。隔月で幅広いテーマで学習会を開いてきた。一昨年「三島憲法 9 条の会」として再発足し新婦人の会と個人が会員となっている。毎年、8 月に「反核・平和の集い」を開いている。臨時のイベントは他の 9 条の会などと合同して実行委員会方式で取り組んでいる。最近では鈴木エイト氏を招いて統一教会に関する講演会を開いた。

◆二つの「9 条の会」は、地域の特性を生かして他の「9 条の会」や市民団体と協働して活動に取り組んでいました。伊東を含めた共通の課題は、若い世代とのつながりをどうつくっていくか、ということでした。こんな発言がありました。

○山口牧師…若い人たちが平和や環境問題に決して無関心だとは思わない。が、「9 条」という言葉は伝わらない。言葉が重要。上から教えるのではなく、彼らの考えや意見を聞くことか大事。

○加藤好一さん…今年、「ポレホレ」に来ている子が原水禁大会に参加し、後輩に経験を伝えている。沖縄問題も現地を訪ね、実見することが必要。

○熱海から来た森本さん…9 条の大切さは支持政党に関係ない。私はガザ侵攻に抗議して自分の言葉でプラカードを作って一人で街頭に立ちました。応えてくれる人がいました。

「地区9条の会」 ～こんな活動をしています

(1)「川奈・吉田 9 条の会」のこれまでの活動

	日　時	会　場	参加者数	テーマ・内容
第一回	22.12.24	川奈コミセン	7 人	会を作る目的やどんな活動をするか、などを話し合う
第二回	23.01.23	川奈聖書教会	7 人	引き続いて会の目的等を話し合い、会の規約を決める。
第三回	03.27	々	7 人	40 代の女性の憲法観や政治について話を聞く。
第四回	05.29	々	10 人	DVD「荒野に希望の灯をともす」を視聴する。
第五回	07.24	々	7 人	DVD「9 NINE 憲法 9 条は訴える」を視聴する。
第六回	09.25	々	9 人	寺本隆信さんから「ILO について」学習する。
第七回	11.20	々	7 人	伊藤秀男さんを招き、インボイス制度」を学習する。
第八回	24.2 月予定			「議員任期の延長」改憲の学習を予定している。

※ 川奈地区以外の方も自由に参加できます。参加費は無料です。
問合せは三好康昭(☎45-1182)まで

(2) 「伊豆高原 9 条の会」の宣伝行動

毎月 9 日、11 時から 30 分ほど伊豆オルゴール館の隣で街頭宣伝を行っています。(車は付近のお店に、問合わせは伊藤廣光さん(080-3314-7047)) 。以下は 1 月 9 日の行動の報告です。

１月９日（火）は伊豆高原９条の会の今年最初の宣伝行動の日でした。いつも宣伝行動を行っている旧「伊豆高原オルゴール館」の前の空き地に 10 名の参加者が集まり、プラスターやポスターを使い、国道 135 号を走る車のドライバーに向かって「憲法変えるな・政治を変えろ！」「憲法９条を生かす」などそれぞれの思いを掲げました。何人かの参加者はスピーチで「改憲の動きは今までになく強まっている。力を合わせて憲法を守る活動に参加しましょう！」と訴えました。　通り過ぎる車からは手を振る人もいて参加者が大いに励まされました。今年も毎月９日の宣伝活動を続けて行く決意を新たにしました。

1/6　募金・宣伝行動を行う　～湯ノ花通りにて

今日の１月６日の湯ノ花通での宣伝活動は午後２時から、いつもの核兵器廃絶と憲法署名の他に、地震・津波被災者への募金を呼びかけました。平和委員会、原水協、市民アクションに加えて新婦人の会からたくさんの人が参加しました。総勢 17～8 名が通りの両側に立って、道行く人に声を掛けました。距離にして 30 メートルほどあったでしょうか。斉藤昭夫さんがマイクを握って、被災者に思いを馳せながら、能登の志賀原発の危険性に触れ、地震大国=日本で原発回帰を進める国の愚かさを批判しました。松の内の土曜日でもあり、団体・家族連れの観光客が多かったです。募金箱に寄せられた善意のお金は 4 万円余りになりました。署名とチラシ配布はどうだったでしょう。私の憲法署名は 1 名だけでしたが、核兵器禁止条約の批准署名はもっと多くありました。今年最初の湯ノ花の宣伝行動は被災者への募金活動を中心にたくさんの人で賑やかに行いました。

（文責　三好康昭）

１月の１９日行動

暖かく風もない穏やかな日和でした。観光会館前に 22~3 名が立ち並び、今年最初のスタンディングを行いました。平和委員会が担当し、山下節子さんが進行役です。今回は、参加者それぞれが短く思い訴えるリレートークの形式で行いました。トップは田中秀幸さん。沖縄の苦境に抗議し、「沖縄を返せ」を力強く歌ってスタート。以下、名前は略して、訴えだけを紹介します。

・「自民党派閥のパーティー券がらみの裏金が問題になっているが、本質は企業献金と労組を含めた団体献金の是非だ。」
・「岸田総理、やめてください。」
・「核兵器と原発をなくそう。」
・「軍備よりも被災地支援にお金をまわせ。」
・「自民党政権を選んだのは私たち国民。選挙に行き、投票で政治を変えよう。」
・「物価高に喘ぐ今、必要なのは消費税減税。」
・「8 兆円の軍事費を生活支援に回せ。」
・「国会の憲法審査会で改憲の動きが強まっている。『9 条の会』に結集してストップしよう。」
・「物価が上がっても年金は上がらず、年金で暮らす人たちの生活は苦しい。」

最後に初参加の春川さんと斉藤さんがコラボで音頭を取り、**「憲法変えるな、政治を変えろ」**とコールしてスタンディングを終えました。

（文責　三好康昭）